

**単元名** ゲーム(ネット型ゲーム)ハンドテニス

**配当時間** 6時間

- 単元の目標** (1) ネット型ゲームでは、その行い方を知るとともに基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができる。
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができる。
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。

**標準的な展開例**

03100302\_001

【準備等】ミニテニスボール（少し大きめの柔らかい素材のボールなど）、段ボール等での自作ラケットなど、学習カード、学習資料など

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 ネット型ゲームのねらいと内容を確認し、学習の進め方について見通しをもつ。</p> <p>○学習のねらいや進め方を知る。 ★ルールを工夫してゲームをしよう。</p> <p>○学習カードや資料の使い方を知る。 ○マナーや安全な運動の仕方について知る。</p> <p>○チームを編成する。</p> <p>2～4 簡単なルールでゲームを楽しむ。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○ラリーゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2人組でネットをはさんでのボール交換、近い距離からだんだん遠く離れて行うなど。</li> </ul> <p>○ゲームの進め方の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール、マナー、対戦相手</li> </ul> <p>○第1ゲームをする。</p> <p>○反省し、練習する。</p> <p>○第2ゲームをする。</p> <p>○反省し、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、作戦、ルール、マナーなど</li> </ul> <p>5～6 ハンドテニス大会をする。</p> <p>○体ほぐしの運動をする。</p> <p>○ハンドテニス大会をする。</p> <p>○第6時は、単元のまとめをする。</p>	<p>・ネットを挟んで、ラリーを続けたり、ボールをつないだりして行うゲームの特性を理解させる。</p> <p>・用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工したものを使用する。また、ボールを手のひらで打つハンドテニスとして用具を使用せずに手をラケットかわりにして行ってもよいとする。</p> <p>・〈ルールや場の例〉 コートはバドミントンコートのサイズを目安とする。 1チーム1～3試合行う。（ダブルス） 1試合6分（2分×3ゲーム）程度行う。ダブルスの交代制で行う。 ・1チーム4～6人、男女混合で編成する。</p> <p>・ストロークなど、しっかりボールをとらえられるようにルールを簡易化したゲームを行う</p> <p>【評】チームで協力して練習を行う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <p>・〈ルールの例〉 サーブはどこから打ってもよい、ネットの高さを調整する（コーンバーで作成する）など</p> <p>・ゲームの結果から、チームの課題に合った動きができていないチームやまとまりのないチームに助言していく。</p> <p>【評】チームに合った課題をもって練習する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・第1ゲームとは別のチームと対戦させる。</p> <p>【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する</p> <p>・チームに合った作戦を立てさせる。</p> <p>【評】ゲームを通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・チームでの話合いや学習カードによる自己評価などをさせる。</p>

**【 備 考 】**

ネット型ゲームでは、用具などを使ったゲームの例示として、バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲームが示されている。ハンドテニスは、ネットを挟んで攻撃と防御が一体となるゲームである。その中でラリーゲームを中心に、自分たちに合ったルールや作戦を工夫してゲームを行う学習を設定した。用具は、段ボール等を手のひら大サイズに加工・補強したものを使用するか、手のひらで直接打つゲームとする。またボールは、テニスボールより少し大きめの柔らかい素材のボールを使用する。ネットに関しては、コーンバーで設置したり、体育館で行う場合はバドミントンの支柱とネットで高さを調整したりして使用する。

**【運動が苦手な児童への配慮の例】**

・ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。